

春のアブラゼミ 第13日目 thatの用法③

組 () 番号 () 氏名 ()

It has so often been said **that** the English (though not the Scots, the Welsh, or the Irish) are an inartistic and unimaginative people, **that** the English have themselves come to believe the accusation. They are told **that** they have no vision, and **that** they are more concerned about their pockets than about their minds and souls. Since they are modest and a docile people, full of self-distrust and slow to give offense, it seldom occurs to them to point out **that** the English have had not only the greatest poet of all time but also more great poets than all other countries put together.

和訳

参考

- ・ the Scots = 「スコットランド人」、the Welsh = 「ウェールズ人」、the Irish = 「アイルランド人」
- ・ artistic = 「芸術が分かる、芸術性にあふれた、美的感覚のある」
- ・ imaginative = 「想像力のある」
- ・ accusation = 「非難」 ← accuse
- ・ vision = 「想像力、先見の明」
- ・ A is concerned about B. = 「AさんはBのことを心配している、懸念している」
- ・ docile = 「おとなしい、素直な」
- ・ self-distrust = 「自己不信」
- ・ give offense/offense to ~ = 「~を怒らせる」
- ・ occur to person to ~ / that ~ = 「~するという考えが人に思い浮かぶ」
- ・ of all time = 「あらゆる時代を通じて、古今を通して」 = 「史上」
- ・ put together = 「ひとまとめにする、あわせる」

英文の読み方

1. 前置詞＋名詞は他の部分から切り分けて形容詞か副詞かを考える。
2. and, but, or が出てきたら直後に注目し、直前に同じ形を探す。
3. a, an, the が出てきたら名詞を探す。
4. 助動詞の後ろには動詞がある。be ~ to や ~ to を助動詞考えれば簡単に動詞が見つかる。
5. 文中副詞の後ろには(一般)動詞がある。文中副詞のほとんどが「-ly」の形をしている。
6. 文頭に前置詞＋名詞があり、その直後に動詞があれば、完全逆転型の倒置。
7. 文頭に否定語があり、直後が疑問文の並び方なら、疑問文型の倒置。
8. 省略は「同形反復」に注目すればすぐ分かる。
9. A of B が出てきたら「BがAする」「BをAする」「Bの持つA」「BというA」「AのB」を特定する。
10. that、-ing、to が出てきたら「名詞」「形容詞」「副詞」を特定する。、-ing のコンマ(,)の省略に注意。

注意点

またまた that の勉強です。やっぱり同じまとめを載せておきます。

■ 僕らは彼がそこへ行ったことを信じている。(従属接続詞の that) [ことシリーズ]

We believe **that** he went there.

■ 僕らは彼がそこへ行ったという事実を信じている。(同格の that)

We believe the fact **that** he went there.

■ 僕には今日読む本が一冊もない。(関係代名詞の that)

I have no book **that** I can read today.

■ 僕はあなたに会えて嬉しい。(理由・原因の that) [なぜ? どうして? の that]

I am happy **that** I can see you.

■ 僕はとても疲れていてこれ以上歩けない。(結果・程度の that)

I am so tired **that** I can't walk any more.

■ 僕が愛しているのは君だ。(強調構文の that)

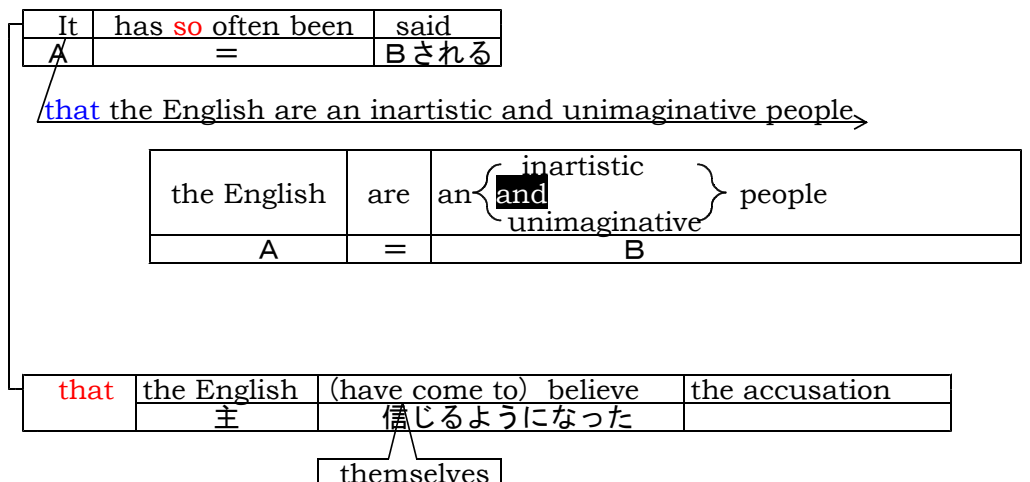
It is you **that** I love.

■ 彼がそこへ行くべきだという点で、僕らは合意した。(熟語の that)

We agree in **that** he should go there.

<見取り図>

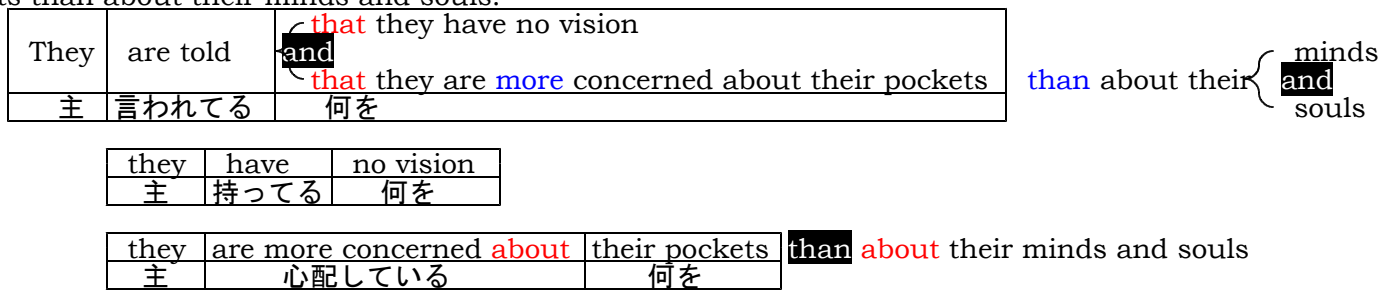
・ It has so often been said that the English (though not the Scots, the Welsh, or the Irish) are an inartistic and unimaginative people, that the English have themselves come to believe the accusation.



- * inartistic や unimaginative の訳語を artistic、imaginative から推測して、「芸術に疎い」「想像力が貧困な」と訳出する。
- * come to ~で「~するようになる」。その現在完了形が have come to ~。日本語には完了形がないので、「~するようになった」と過去形で訳出すればよい。
- * oneself には「①自分自身は、を、に」と「②自分で、他人の助けを借りずに」の2つの用法がある。ここでは②の意味で使われていて、by themselves とほぼ同じ意味。挿入句は have と過去分詞の間に割り込むことを思い出すこと。
- ★ so often been said の so とセットの that が「結果・程度の that」。
- ★ It has often been said that ~の It が形式主語で、that が真主語。

【全訳例】イギリス人（スコットランド人やウェールズ人、アイルランド人はそうではないが）は芸術性に疎くて想像力が貧困な民族であると言われることがあまりにも多かったので、イギリス人自身もその非難が正しいと信じるようになってきた。

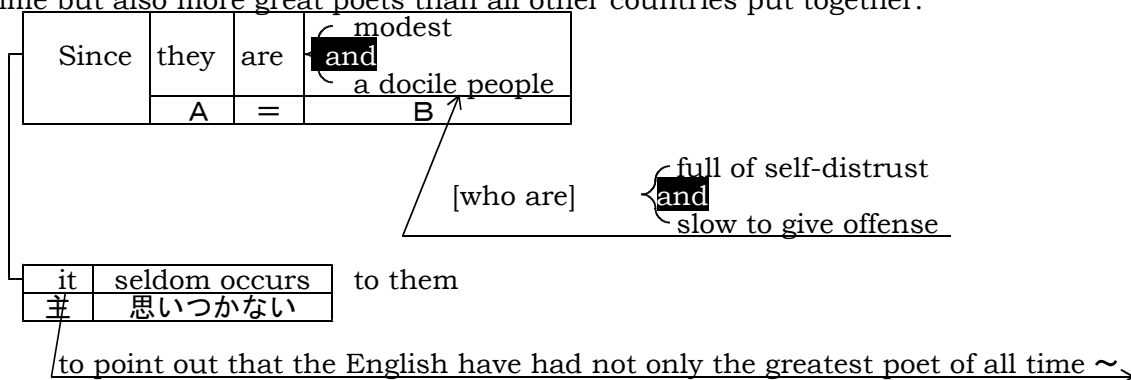
・ They are told that they have no vision, and that they are more concerned about their pockets than about their minds and souls.



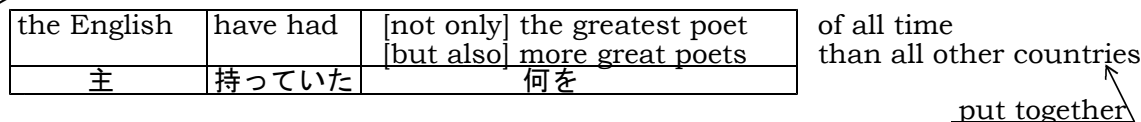
- * they は前文の主語にもなっている the English。
- * vision には「先見の明」「洞察力」「想像力」の意味がある。no vision で「想像力がない」。
- * A is concerned about B で「AさんはBのことを心配している」。Aは人じゃないといけない。
- ★ than も接続詞で左右対称構造を要求するから、直後に注目して about、直前にも about を探す。
- ★ They are told (イギリス人は言われている) に続く「何を」が2つあって、that 文 and that 文の構造になっている。そして、that 直後の文は完全文だから、「ことシリーズの that」だと分かる。

【全訳例】彼らは想像力がなく、精神や魂のことよりも財布の心配をすることが多いと言われている。

• Since they are modest and a docile people, full of self-distrust and slow to give offense, it seldom occurs to them to point out that the English have had not only the greatest poet of all time but also more great poets than all other countries put together.



<文>



- * modest は「謙虚な」
- * docile で「おとなしい、素直な」
- * self-distrust で「自己不信」。
- * 人 is slow to give offense の to は「何するのが？」の to。ルール 16 で使った例文を挙げておきます。
 ■この本は難しい→(なにするのが?)→1日で読むのが
 This book is difficult to read in a day.
- * give offense/offense to 人で「人を怒らせる」。ここでは to 人は省略されている。
- * It occurs to 人 to ~ で「~という考えが人の頭に浮かぶ」。It は形式主語で to 以下が真主語。
- * of all time で「あらゆる時代を通じて、古今を通して」=「史上」
- * put together は「ひとまとめにする、あわせる」。put は過去、過去分詞が同形なので注意が必要。ここでは all other countries を飾る過去分詞であることに注意。ルール 16 では、次の例文と同じ用法。
 ■英語で書かれた本
 a book written in English
 ▼ひとまとめにされた他のすべての国々
 all other countries put together
- * the greatest poet of all time (歴史上もっとも偉大な詩人) とはシェークスピアのこと。
- * more great poets は「より偉大な詩人」じゃなくて「もっと多くの偉大な詩人」。many great poets の比較級であることに注意。more が出てくると「より~」と訳してしまう受験生が多い。

【全訳例】彼らは謙虚で、自分のことをあまり信用しておらず、人をなかなか怒らせない国民なので、イギリスは歴史上最も偉大な詩人(シェークスピア)を輩出しているだけではなく、他の国をすべて合わせたよりもっと多くの偉大な詩人を輩出しているのだ、ということをお口にしようなどとは滅多に思いつくことはないのである。

<解法>

この英文のポイントは、最初の文に「形式主語の真主語の that (ことシリーズ)」と「so ~ that (程度・結果)」の 2 つの that が混在しているのに気がつくかどうかです。形式主語の真主語の方は見つけやすいのですが、so や such とセットになる「程度・結果の that」は見落とししてしまう子が多いのではないのでしょうか？

■~ということが今まで頻りに語られている。
 It has so often been said that ~

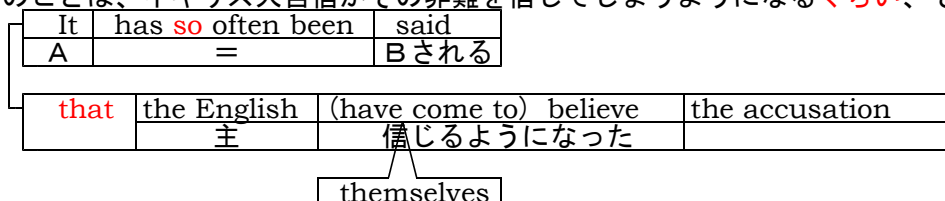
最初の that は形式主語 It の真主語で、長い主語 (that 文) が後ろに回っていることには、すぐに気がついたと思います。形式主語の文が一通り終わって、コンマの後ろに出てくるのがこの that です。

▼イギリス人自身がその非難を信じるようになったこと?!
 ~ people, that the English have themselves come to believe the accusation

コンマ+関係代名詞だから「非制限用法の関係代名詞」で、and、but、because を補って、先行詞から後半を訳し始めるんだ!と思った子はハズレです。だって、that は非制限用法には使えないからです。つまり、「コンマ+ that」は関係代名詞にはならないのですよ。

次に that を「ことシリーズ」で訳出しても意味が通じません。そこで、もう一度最初の英文を見直してみると so があることに気がつきます。そう、この that は「そのくらい~だ」とはどの程度なのかを説明する「程度・結果の that」なのです! 真主語を削ってしまうと分かりやすいでしょう。

■そのことは、イギリス人自信がその非難を信じてしまうようになるくらい、そのくらい頻りに語られてきた。



もちろんこの that は中学以来お馴染みの「とても~なので (その結果)・・・」でも訳出できます。
 ■そのことはとても頻りに語られてきたので、(その結果) イギリス人はその批判を信じてしまうようになった。

第2文にも tha が2つあります。でも、これは簡単ですよ。だって接続詞 and がつくるシンメトリックな構造さえ見抜ければ「ことシリーズ」だと分かるからです。つまり、「and、but、or が出てきたら、直後に注目して直前に々形を探す」を毎回やっていたら良いわけです。あ、ただし、「and、but、or の直前にコンマがあれば、文がそこで大きく区切れる」というルールも忘れてはいけませんよ！ま、100%のルールじゃないけどね。

They	are told	that they have no vision	
主	言われてる	何を	

and

that they are more concerned about their pockets

than about their

minds
and
souls

and の直後には that があって、直前にも that が出てくるので、and は2つの that 文を結んでいることが分かります。そして、They are told ~に続いているのですから、イギリス人が世間で言われていることが2つあるんだと考えながら読めば良いわけです。だからこの that は「ことシリーズの that」です。あ、than もシンメトリックな構造を好みます。ここでも than の直後にあるのは about 名詞1 だから、直前にも同じ形を探すとやっぱり about 名詞2 が出てくるよね。だから、イギリス人が心配していることは about 名詞1 よりもむしろ about 名詞2 だと思って読めば良いのです。